

取り組んだ テーマ	『児童生徒や保護者の問題解決を促進するスクールソーシャルワーカー の効果的な介入方法』
--------------	--

1 達成に向けた手立て

① 不登校児童生徒へのつなぎ支援

- ・家庭訪問やSSR場面を活用し、児童生徒の興味や得意なこと（強み＝ストレングス）を把握する。
- ・つなぎ支援を実践（季節や行事に関連した折り紙制作、植物採集、手話学習を取り入れた活動を実践し、折り紙制作の成果を家庭、学校、公民館に飾り付け、家族や教職員、児童生徒に見てもらうことで交流を促進する。

② 保護者・不登校児童生徒への支援

- ・小学3年生女子児童から、父親の体調不安や母親への不満についての相談を受け、問題の背景を把握する。
- ・校長、担任、SSWが同席して、児童の相談内容を父母に伝え、家庭の状況や母親の特性を共有。母親から生活支援の希望を聴取する。
- ・SSWが東広島市生活支援センターや地域共生推進課と連携する。
- ・校長がこども家庭課や障害福祉課と連携し、母親の特性や支援ニーズを共有する。
- ・ファミリーサポートや子育てサポートを通じた支援を行政と連携して進める。
- ・年末にこども家庭課や指導課で住居の大掃除を実施し、1月に支援会議を開催する。

③ 児童生徒・保護者面談での支援

- ・ホワイトボードへの書き込みのタイミングや内容を調整し、視覚的に情報を整理しながら面談を実施する。
- ・児童生徒・保護者との面談で使用状況を分析し、面談後にホワイトボード使用に関する感想を聴取する。

2 取組の成果と課題

成 果	課 題
① 不登校児童生徒へのつなぎ支援 ・つなぎ支援を通じて、児童生徒の興味や得意分野を具体的に理解することができた。 ・楽しい活動や他者から褒められる体験を提供したことで、児童生徒のネガティブな感情や気分が一定程度改善された。 ・特に不登校児童生徒において、気分緩和動機が生まれ、ネガティブな気分の持続を防ぐ効果があった。 ・昨年度、高校入試の自己表現で手話学習の成果を発表した生徒がいた。 ・不登校状態から学校復帰を果たした児童生徒が複数現れた。 ② 保護者・不登校生徒への支援 ・母親の精神福祉手帳保有や生活支援希望の具体的な内容が明らかになった。 ・教育機関と行政機関が情報を共有し、迅速に支援に取り組む体制を構築できた。 ・年末の住居大掃除を決定し、生活環境改善に向けた第一歩を実現した。 ③ 児童生徒・保護者面談での支援 ・中学校生徒では自己の考えや感情の明確化、目標や行動方針の把握、相談後の気分の改善が見られた。 ・保護者では思考や感情の整理、具体的な情報の取得、具体的な行動計画の把握、家族関係の改善意欲向上が見られた。 ・対話が円滑になり、関係性の視覚化により問題の背景が明確になった。	① 不登校児童生徒へのつなぎ支援 ・家庭訪問時、その日の気分や体調不良で児童生徒と会えないことがあるため、事前に家庭との連携を取っておく必要がある。 ・つなぎ支援を実践するにあたり、家庭の理解や協力が得られるよう工夫する必要がある。 ② 保護者・不登校児童生徒への支援 ・父親の体調に対する児童の不安や母親への不満に対する心理的なケアが必要である。 ・母親の特性に配慮しながら、日常生活や育児をよりスムーズに行えるよう支援を継続する必要がある。 ・一時的な支援に留まらず、継続的な家庭支援や母親の自立支援の仕組みを整えることが必要である。 ③ 児童生徒・保護者面談での支援 ・言語化して表現することが難しい児童へのホワイトボードの活用方法を検討する必要がある。 ・相談や面談でホワイトボードに記載する内容は詰め込みしすぎない、重要なポイントを絞り整理された形で記載する必要がある。 ・書くタイミングや情報量を調整し、会話の流れを妨げない工夫をする必要がある。

3 次年度に向けて

①不登校児童生徒へのつなぎ支援

- ・「かかわる→つなぐ→ひらく→見守る」の流れに沿った支援を継続する。
- ・「つなぐ支援」を実践し、児童生徒が家庭、学校、地域とつながりを広げる取り組みを引き続き強化する。

②保護者・不登校生徒への支援

- ・定期的に情報を共有し対応を協議する場を設定する。

③児童生徒・保護者面談での支援

- ・言語化して表現することが難しい児童へのホワイトボードの活用方法を改善する。
- ・ホワイトボードの記録を写真などで保存し、定期的に振り返りを行う仕組みを導入して、児童生徒・保護者と共有し、進捗を確認する場を設ける。
- ・ホワイトボードを活用する際の留意点を検討し改善を図る。